

科目責任者 片山 昌勅 (生体機能分析学研究室)

■教育目的

分析化学Ⅰに続き、基本的な機器分析法であるクロマトグラフィーと分光分析法、原子吸光法、発光分析法、旋光度測定法及び熱分析法について学習する。各分析法の原理や装置は、Web教材やマルチメディア機器を利用して視覚的に理解できるようにする。【ディプロマポリシー：YD-①、②、⑥、SD-①、②、③】

■学習到達目標

1. 分光分析法の分類と各々の原理、装置について説明できる。
2. クロマトグラフィーの分類と各々の原理、装置について説明できる。
3. 電気泳動法の分類と各々の原理について説明できる。
4. 原子吸光法の原理、操作法、応用例を説明できる。
5. 発光分析法の原理、操作法、応用例を説明できる。
6. 旋光度測定法(旋光分散)の原理、応用例と比旋光度測定法を説明できる。
7. 円偏光二色性測定法の原理、応用例を説明できる。
8. 熱重量測定法の原理、示差熱分析法、示差走査熱量測定法を説明できる。

■準備学習(予習・復習)

予習：指定された教科書に目を通しておく。(30分以上)

復習：講義ノートをまとめ、要点を各自が整理する。(30分以上)

■授業内容

医薬品を定性、定量する方法の原理と装置および計算方法と結果の表記法につき講義する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	吸光分析法	電磁波の種類と分析法 紫外可視吸光度測定法と応用	C2(4)-①-1
2	//	紫外可視吸光度測定法の原理と応用	C2(4)-①-1,6
3	蛍光分析法	蛍光光度法の原理と応用	C2(4)-①-2
4	//	//	
5	電気泳動法	基礎理論 アガロース電気泳動、ポリアクリルアミド電気泳動	C2(5)-②-1
6	//	アガロース電気泳動、ポリアクリルアミド電気泳動	C2(5)-②-1
7	//	キャピラリー電気泳動	C2(5)-②-1
8	クロマトグラフ法	基礎理論、検量線法	C2(5)-①-1～5
9	//	各種クロマトグラフ法	C2(5)-①-1～5
10	//	液体およびガスクロマトグラフ法	C2(5)-①-1～5
11	原子吸光法	原子吸光光度法	C2(4)-①-4
12	発光分析法	発光分析法の原理、操作法および応用例	C2(4)-①-4
13	旋光度測定法および比旋光度	旋光度測定法(旋光分散)、比旋光度測定法	C2(4)-①-5
14	円偏光二色性測定法	円偏光二色性測定法の原理と、応用例	C2(4)-①-5
15	熱分析法	熱重量測定法、示差熱分析法、示差走査熱量測定法	C2(4)-⑤-1 C2(4)-⑤-2

■授業分担者

A,C組：片山 昌勅、B組：小笠原 裕樹

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

期末試験(100%)で評価を行う。

■教科書

コンパス 分析化学 第2版(南江堂)

■参考書

『第17改正日本薬局方解説書』(廣川書店)